

純情産地発クララ vol.843

KLARA



純情産地
いわて
since 1989

2019

10



特集

今後の系統米穀事業を見据えた
取り組みについて

* レッツトライ クッキング * イベント情報 * みんなの分教場
* 営農支援レポート * 純情むすめ活動記 * 純情人 他



今後の系統米穀事業を見据えた 取り組みについて

米穀部



レッツトライ
クッキング!

Let's try ^{orders} 7
cooking

旨味たっぷり、
いろいろ“おにぎり”

料理監修/高橋ヒサ子
管理栄養士・いわて糖尿病療養指導士

♡おにぎり各種

- 枝豆・コーン・塩こんぶ
 - 炒り卵(白だしと酒で下味)・オクラ(塩茹で)
 - 赤米・青じそ
 - かぶの葉または大根の葉(塩茹で)・紅鮭
 - セロリの葉・鶏唐揚げ(しょうゆ・酒で下味)
 - セロリの葉・茹でエビ→少量のオイスターソースまたはトマトケチャップをのせる
- ※ゴロっとした具材を使う場合は握らず、軍艦巻きのように作る。

純情産地発 **KLARA** vol.843 2019 **10**

タイトルのKlara (クララ) は、宮沢賢治の手帳に記されている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。



contents

Let's try cooking	02	みんなの分教場	07
特集		宮農支援リポート	08
今後の系統米穀事業を見据えた 取り組みについて	03	純情むすめ活動記	09
イベント情報	06	純情人	09
		ニュースワイドアングル	10

本県における「平成30年産米」は、6月下旬の分げつ期における低温・日照不足の影響により茎数が不足したことで、作況指数「101」の「平年並み」の公表値に値する収量には達しませんでした。しかし、7月以降の猛暑の影響が懸念される中、品質については主食用うるち米の1等米比率が98.1%（平成31年3月末現在速報値）と、平成26年産以降では最も高い値となりました。（図1）また、「米の食味ランキング」では県南ひ

【図1】本県の主食用うるち米 等級比率一覧

年産	検査数量	等級比率			
		1等	2等	3等	規格外
30年産	153,264	98.1%	1.5%	0.2%	0.2%
29年産	174,534	94%	5.2%	0.6%	0.2%
28年産	186,066	98%	1.7%	0.1%	0.2%
27年産	201,741	96.2%	3.3%	0.3%	0.2%
26年産	206,304	93.7%	5.6%	0.4%	0.3%

※30年産は平成31年3月末、以外は翌年10月末（最終）の値です。
※検査数量・等級比率は農水省公表値を使用しています。

2. 作付品種ビジョンの策定と実践

農水省・岩手県が策定した「水田フル活用ビジョン」にもとづき、JAおよび関係機関と連携することで、主食用米（うるち・もち・酒造好適米）および水田活用米穀（加工用米・飼料用米・備蓄米等）の適正生産に努めています。また、県オリジナル品種「金色の風」については、生産者の努力によって栽培管理を徹底し、最高品質の食味を追求していただいております。今後も高級家庭食用として継続した取り組みをしていきます。「銀河のしずく」については、飽きのこない軽やかな食感を最大限に活用し、従来の家庭食用だけでなく中食・外食に対応した業務用への活用も視野に入れながら、作付けの適正配置に取り組みでいきます。

3. 新たな事業方式の構築と生産者と結びついた販売の実践

生産者所得の安定を目的とした取り組みとして、販売先への事前契約（複数年契約・収穫前契約）の締結を継続的に推進しています。事前契約の締結にあたっては、販売先への需要動向調査と、その結果を踏まえたJAとの生産計画策定を前提としています。

令和元年産米では、主食用うるち米の集荷計画116,300トに対し88,187ト（計画対比76%）の事前契約を提案しました。

令和2年産米については、主食用うるち米の集荷計画121,800トに対し75,015ト（計画対比62%）の事前契約を提案し、現在契約を積み上

とめられ「特A」に返り咲き、通算23回目の獲得となったほか、県中銀河のしずくも「特A」を獲得しました。

一方、令和元年産米の生育状況については、5月の田植え以降天候に恵まれ順調に生育が進んでいましたが、7月上旬～中旬に低温注意報が発令される状況となり、草丈が平年を下回るなどの影響が散見されました。しかし、茎数・葉齢とも平年並みを確保し、また、7月下旬以降の天候の回復により、順調に出穂・登熟時期を迎えています。

また、JAグループでは、主食用以外の米の生産を通じ、水田フル活用することを重要施策の一つとしており、その実行具体策として備蓄米約21万トンの生産に取り組み目標を掲げております。本県では、各JA・関係機関の協力のもと、買入予定数量3,478ト（内JAグループ3,087ト）に取り組み、令和4年産までの買入優先枠を確保しました。

このような情勢の中、私たちは、生産者が継続的かつ計画的に米の生産に取り組める環境を整え、安全で高品質なお米を消費者にお届けすることを最も重要な目的として、以下の基本方針に基づき事業を展開して参ります。

- 1. 系統集荷量の拡充
- 2. 作付品種のビジョンの策定と実践
- 3. 新たな事業方式の構築と生産者と結びついた販売の実践
- 4. 食の安全・安心への取り組みの充実

上げていきます。

今後も事前契約比率を向上させる取り組みを強化することで、水稻生産者が計画的かつ安心して生産に向き合える環境をJAと一体となり整備していきたいと考えています。（図3）

【図3】令和元年産・2年産米 事前契約提案数量

	令和元年産			2年産		
	集荷計画①	事前契約数量②	集荷計画対比③=②/①	集荷計画④	事前契約数量⑤	集荷計画対比⑥=⑤/④
ひとめぼれ	86,400	64,156	74%	87,100	53,536	61%
あきたこまち	14,000	12,529	89%	13,000	10,619	82%
金色の風	1,300	1,052	81%	1,700	921	54%
銀河のしずく	7,600	5,577	73%	10,000	4,887	49%
いわてつこ	3,100	2,300	74%	3,100	2,480	80%
どんびしゃり	3,000	2,344	78%	3,000	2,344	78%
その他	900	228	25%	3,900	228	6%
合計	116,300	88,187	76%	121,800	75,015	62%

4. 食の安全・安心への取り組みの充実

「食の安全・安心」の取り組みとして、放射性物質検査・DNA分析検査・残留農薬検査等を実施することにより科学的な根拠を示し、米産地としての責任を全うすることに努めています。

1. 系統集荷量の拡充

現在、県内米生産量における主食用米のJA集荷率は66%と推測されます。令和3年産までにJA集荷率を70%まで向上させる目標を掲げています。このため今年度より「米穀推進センター」を新設し、同センターと県内各JAが緊密に連携を取り、主に大規模・中核生産者や系統未出荷あるいは低出荷の生産者へ積極的に働きかけを行うことにより、系統集荷率の向上に取り組んでいます。

また、県内2か所に設置された広域集出荷施設（低温倉庫）では、近年生産者からの出荷ニーズが高いフレコンバックによる集荷に対応しています。当該施設は、温度・湿度を適正に管理し、玄米を長期間、安定した品質で保持することが可能であり、本県産米の実需者からも保管施設として高い信頼を得ています。（図2）

【図2】広域集出荷センター概況

名称	所在地	延床面積	標準収容力
いわて純情米広域集出荷センター「絆」	花巻市	3,841.9坪 (倉庫:3,656.8坪、 検査場:185.8坪、 管理棟:39.3坪)	18,580ト
いわて純情米県北広域集出荷センター「結」	滝沢市	2,994.8坪 (倉庫:2,697.1坪、 検査場:258.5坪、 管理棟:39.2坪)	12,950ト

この他にも、県産米「いわて純情米」のPRとして女優の「のん」さんを継続して起用し、テレビCMを中心とした全国的なPRを展開しています。また、首都圏やいわて花巻空港などにPR看板を設置し、消費者や観光客への更なる認知度強化に取り組んでいます。（図4）

本県においても水田の集約が進み、大規模な担い手や経営体が地域農業を支える存在となっております。また生産調整制度の廃止から2年目を迎える、作付けの自由度が増してきたと考える生産者が増えてきたとの印象を持っています。

このような情勢の中で、水稻生産者の持続的な営農の安定を実現するためには、需給動向を踏まえ「用途」（主食用米or水田活用米穀）と「ターゲット」（家庭用or業務用）を見極め、柔軟かつ戦略的に作付けを行うことが肝要と考えます。

そのためには、「情報（需給見通し等）」と「コミュニケーション（納得するまでの話合）」が必要不可欠であり、最も生産者に近いポジションでお手伝いできるのがJAであり我々、全農であると確信しています。

私たちはこれからも県内JAと連携を強化し生産者のため、そして消費者に安全・安心なお米を届けるため、日々努力してまいります。

【図4】ポスターイメージ



お米の検査について

米穀部
米穀推進センター 菊池 満



令和初となるお米の収穫もはじまり、お米好きには心躍る季節になりました。そこで今回は、知っているようで詳しくは知らないお米の検査(農産物検査制度)について、ご紹介したいと思います。

◆農産物検査とは...

農産物検査は、そもそも国が定めた農産物検査法に基づく制度であり、検査規格等が全国統一で定められています。そのためお米の取引は、規格に基づく等級付けにより、現物を確認することなく大量・広域に流通できる仕組みになっています。この農産物検査は、現在、民間の登録検査機関(農林水産省に届出た者)で行われています。

ここでは水稲うるち玄米の規格について見ていきましょう。下表(表1)のとおり、1等から3等までの「等級」各付けが行われ、各項目の数値により等級決定が行われます。

これらの項目は、玄米を精米する際、精米歩合に影響を与えるもので、「整粒」「形質」「被害粒」「死米」「着色粒」「異種穀粒」「異物」に区分けされています。「被害粒」には「発芽粒」「胴割粒」等があり、「未熟粒」には「乳白・心白粒」や「腹白粒」(総称して「シラタ」と言われています)、「青未熟粒」等があります。

農産物検査員は提供された試験料を確認して、項目ごとの規格に基づき1等〜3等規格外に格付けしていきます。1等に各付けされたものが、最も良い品質のお米ということになります。

岩手県の産地品種銘柄(品種

表-1 農産物検査規格 水稲うるち玄米

項目	最低限度		最高限度									
	整粒 (%)	形質	水分 (%)	被害粒、死米、着色粒、異種穀粒及び異物								
				計 (%)	死米 (%)	着色粒 (%)	異種穀粒			異物 (%)		
等級												
1等	70	1等標準品	16.0	15	7	0.1	0.3	0.1	もみ及び麦を除いたもの (%)		0.3	0.2
2等	60	2等標準品	16.0	20	10	0.3	0.5	0.3			0.5	0.4
3等	45	3等標準品	16.0	30	20	0.7	1.0	0.7			1.0	0.6

規格外 - 1等から3等までのそれぞれの品位に適合しない玄米であって、異種穀粒及び異物を50%以上混入していないもの

表-2 岩手県 産地品種銘柄

- あきたこまち
- いわてっこ
- かけはし
- きらほ
- 銀河のしずく
- コシヒカリ
- 金色の風
- ササニシキ
- たかたのゆめ
- トヨニシキ
- どんびしゃり
- ひとめぼれ
- ほむすめ舞
- 萌えみのり
- ミルクークイーン
- ゆきおとめ

【被害粒】



【未熟粒】



写真:農水省HP「検査用語の解説」より



農産物検査の様子(JAいわて中央)

◆おわりに

今年の水稲の生育は、6月から7月に低温日照不足の時期がありましたが、それ以降の天候の回復により概ね順調に推移しています。

JAグループ登録検査機関では、農家の方々が丹精込めて作った美味しいお米を、全国の消費者の皆様にお届けするため、今後とも検査規格に基づく適正な検査を実施していきたいと思っております。

◆岩手県内JA農産物検査員は約400名

岩手県内における登録検査機関数は37機関あり、検査員数は567名。そのうちJA系統では7JA全てが登録検査機関であり、検査員数は403名となっています。(いずれも平成31年3月31日現在)

県内JA登録検査機関は、適正な農産物検査を実施するため、岩手県JA農産物検査協議会を組織して、鑑定技術の維持向上や農産物検査員育成に努めているところです。

◆30年産米の1等比率 1位は岩手県

(平成31年3月31日現在)

30年産米の検査結果を見ると、全国では432万トンが検査され、1等に各付けされたものは全体の80.5%でした。県別に見ると、1位が岩手県で98.1%(検査数量15万トン)、2位長野県97.0%、3位青森県96.5%で、下位県は昨年、台風や大雨被害のあった西日本を中心に和歌山県15.3%、高知県20.4%、三重県24.8%となっています。

名を標記して販売できるものは、表2のとおりです。

す。また、落等理由では心白・腹白粒混入過多27%、充実不足24%、整粒不足23%、着色粒11%と高温や台風・大雨による被害が落等の要因となっています。

精米事業者にあつては、被害粒等のなかでも「シラタ」と言われる白く濁った粒、胴割粒、着色粒が特に嫌われる傾向にあります。



毎月行われる イベントを 紹介します!

Monthly Event Introduction

◆10月開催予定イベント

10月1日~12月31日	総合エネルギー部	JA-SSあったか灯油キャンペーン
10月2日	営農支援部	第5回TACアグリビジネススクール
10月3日	営農支援部	JA-TAC管理者ミーティング兼営農担当課長会議
10月11日	園芸部	いわての純情りんごトップセールス
10月12日	米穀部	いわての美味しいお米 新米フェア
10月12日~13日	畜産酪農部	いわて純情豚試食会(ラグビーWCファンゾーン in 岩手・釜石)
10月19日~20日	畜産酪農部	東京食肉市場まつり
10月26日~27日	管理部	「盛農祭」ブース出展

スケジュールは変更になる場合があります

JA-SSあったか灯油キャンペーン

エネルギー事業所(石油)

【期間】10月1日(火)~12月31日(火)

いわてJA-SSチェーンが主催する「あったか灯油キャンペーン」が今年も開催されます!キャンペーン期間中、応募条件に該当するお客様に応募用紙を進呈。応募者の中から抽選で、ギフトカード2万円分や北東北3県の名産品など豪華賞品を進呈します。当選者は北東北3県で総計924名!ふるってご応募ください。

詳しくは「あったか灯油キャンペーン」ののぼりのあるJA-SSへ。今年の冬も、ぜひJA-SSへお越しください!

盛岡農業高校「盛農祭」

管理部

【日時】10月26日(土)~27日(日)
9:30~15:00

【場所】盛岡農業高校

盛岡農業高校「盛農祭」に、今年もJA全農いわてがタイアップします!

「盛農祭」は、盛岡農業高校の生徒たちが丹精を込めて育てた農畜産物・加工食品の販売や動物とのふれあい広場など農業高校ならではの企画が盛り沢山です。毎年、盛農生の作る農畜産物や加工食品を楽しみに多くの来場者で賑わいます。

なんと、盛岡農業高校は今年で創立140周年!節目の年を迎え、盛農祭に対する生徒たちの気合も十分に

す。将来の岩手県の農業を担う生徒たちの若いパワーにぜひ注目ください!

JA全農いわてでは、盛農祭を隅々まで楽しめるクイズをご用意。クイズとアンケートに回答してくれた方には県産農畜産物や盛農産物産物など、豪華賞品が当たる抽選会を実施する予定です!両日とも「2019いわて純情むすめ」「じゅんきくん」が参加予定!

ぜひ盛農祭に遊びにいらしてください。



昨年「2018いわて純情むすめ」が「純情体操」を披露しました

いわての美味しいお米 新米フェア

米穀販売課

【日時】10月12日(土) 10:45~11:30

【場所】イオンモール盛岡 1F イーハートブ広場

JA全農いわて・岩手県(株)純情米いわておよび純情米需要拡大推進協議会は、収穫適期となり本格的な収穫が始まった「いわて純情米」の県内販売開始に合わせて、10月12日(土)、イオンモール盛岡にて「新米フェア」を開催します。

セレモニーには、達増拓也岩手県知事ら関係者5名が出席予定です。セレモニー会場にお越しの先着200名のお客様には「金色の風」300g・「銀河のしずく」300gのサンプル米とエコバックのプレゼントを実施予定。また店頭では、岩手県オリジナルブランド米「金色の風」「銀河のしずく」の試食コーナーが特設される予定です。2種類のお米の味の違いを楽しむことができます。

ぜひ会場にて「令和元年産米」の味をお確かめください。



新米が店頭でスラリと並びました

開局50周年記念テレビ岩手感謝祭 「5きげん米」お振舞い

番外編

JA全農

【日時】10月5日(土)~6日(日)

【場所】岩手産業文化センター アピオ

10月5日(土)~6日(日)に開催される「テレビ岩手感謝祭」にて、「5きげん米」のごはんを数量限定で振舞います!「5きげん米」とは、盛岡市の水稲農家、兼平定(かねひらさだむ)さんの圃場で育てられた「銀河のしずく」です。「5きげんテレビ」MCの岩瀬弘行アナ、矢野智美アナ、きぬさんの3名が田植え・草刈り・稲刈りなどを体験し、兼平さんと共に育てたお米です。

無事に収穫を迎えた「5きげん米」の味を確かめるチャンスです!ぜひ会場に足をお運びください。



兼平さんの圃場で稲刈りを行う矢野智美アナウンサー

生産者と共に奮闘する
営農支援部の活動をレポート

TRY! 営農支援 レポート

「東北ブロックTAC管理者研修会」を開催しました



営農支援課
早見 隆志

J A全農いわてでは、去る7月23日〜24日に盛岡市内で「東北ブロックTAC管理者研修会」を開催しました。この研修会は、担い手への出向く活動を行うJ Aの体制維持・強化に向けて、TAC管理者の視点で現状の課題の洗い出しと解決策等を協議・共有を図ることを目的に、毎年、東北各県が持ち回りで開催しているものです。

今年も若手開催で、東北6県のJ AのTAC管理者や県域TACら約40名が出席。本会の藤村副本部長は、「前期3か年の農家手取り最大化プロジェクトのモデル経営体からは、『様々な業者が訪問する中、J Aグループの担当者が提供してくれた情報や提案内容が『一番良かった』との評価を得た。農家所得向上には、TACからの情報提供や提案がますます重要となるので積極的な意見交換をお願いしたい」と挨拶しました。

初日は、全農本所耕種総合対策部松本本部長が、「TAC活動の全国情勢」や「今後の出向く活動強化に向けた取組方針」を報告した後、同TAC推進課山田担当の進行でグループディスカッションを開始。参加者は自J Aの出向く活動の具体的課題の洗い出しや課題解決に向けたアイデアを出し合い



グループディスカッションで課題を洗い出し、その解決策を協議しました。

ました。参加者からは「他J Aの状況や課題を確認できたことで、自J Aの弱点・課題を明確化できた」、「課題解決に向けた改善策の参考になった」との声が多数ありました。

続いて、情報提供として、本県の「農家手取り最大化の取組」と「農業法人での営農管理システム『Z・GIS』の活用」を紹介しました。

「農家手取り最大化の取組」では、本会より前期3か年の取組と成果、今次3か年の取組概要と実践メニューを紹介した後、J A新いわて八重畑営農経済部長代理より「前期3か年に実施した人材育成について」、J Aいわて中央伊藤担当手対策課長より「今後のTACの目指す姿について」とのテーマでそれぞれ発表いただきました。また、「農業法人での営農管理システム

「Z・GIS」の活用」では、栗石町の株みのり子沢三宅専務が、「人や代が替わっても地域農業を維持できるノウハウ蓄積」が必要であり、Excelでのデータ管理で既存データの活用や新規項目作成などの自由度が高いことが「Z・GIS」導入の決め手となったことや、今後はドローン、GPS田植機、コンバインの収量・食味センサーのデータ等と連携して活用したいと語りました。

2日目は、本県の「水稲鉄コーティング種子供給・直播栽培の取組」視察を八幡平市で実施し、種子製造委託先である三研ソイル(株)や、今年度初めて鉄コーティング種子のドローン散布試験を実施した農事組合法人サンロードの圃場で参加者は熱心に質問等をしていました。

本会は、今後もTACが担い手農家とJ Aのパイプ役となり、担い手農家の課題解決を図っていくよう、TACの活動を支援し、現場に寄り添った取組を展開していきます。



株みのり子沢の三宅専務の講演の様子

笑顔がはじける

純情むすめ 活動記



2019いわて純情むすめ
内田 有紗

「奥中山農業祭に参加して」

9月7日(土)、「第12回JA新いわて奥中山農業祭」に参加しました。今回は先着500名の来場者プレゼントの配布、和牛共進会、バター作り体験、魚つかみ大会、いわて牛の無料試食、そして餅まきなど様々なイベントのお手伝いをさせていただきました。バター作り体験では、牛乳を入れた容器を上下に約5分間振り続けるとバターが完成するとのこと、結構簡単なんだなと最初は思っていました。その5分がすごくきつー！しかも素早く力強く振らなければバターはできません。しかし私は中学の時のバドミントン部での素振り、大学でのさんさ踊りの太鼓の練習のおかげで、素早く力強い手首のひねり方を習得していたので他の参加者の方より早くバターを完成させる事ができました！(笑)。完成したバターは牛乳の味も感じられとても美味しく、塗って食べるパンが欲しくなりました。



いわて牛の無料試食は大人気で、お年寄りから小さなお子さん、また外国からいらした

方々まで皆さんとても美味しそうに食べていらっしゃり、見ていた私まで嬉しくなりました。いわて牛はとても美味しく、私も大好きです。しかし美味しい分お値段も高いため、なかなか手を出しにくいということもあるかと思えます。今回のような無料試食会を通して、丹精込めて育てられたいわて牛の良さをたくさんの人に伝え、いわて牛のファンを増やせるよう頑張りたいと思いました。

今回の奥中山農業祭は子供たちが楽しめるイベントも多く、お祭り会場は子供たちの楽しそうな声でも賑わっていました。白熱した魚つかみ大会や、鉄人ガンライザー&リアスマリオンとの握手撮影会、バター作り体験など、純情むすめとして参加した私も、楽しく思わずはしゃいでしまいました。ステージの上での挨拶など緊張する場面もありましたが、皆さんが暖かく見守ってくださったおかげで楽しみながら参加することができました。

これからも「いわて純情むすめ」として、沢山のことを学び、県内外色々な地域の方々に、県産農畜産物の魅力をお届けすることはもちろん、岩手県の良いところを沢山発信していきたいと思えます。



JA全農いわての 純情人 じゅん じょう びと

●趣味・特技
趣味：野球・サッカー観戦です。
特技：卓球・ピアノです。
(ブランクは長いですが…)

●現在の担当業務
農業の発注業務、袋資材・倉庫資材の発注業務を行っています。

●これからどんな職員になってみたいか
まだ入会して半年しか経っていないこともあり、本会の業務を全て分かっていないように感じます。将来的には、本会の業務を全て理解した上で、日頃の業務と向き合い、視野の広い職員になりたいと思います。

●その他アピール
今は発注業務を担当しているので、システム入力を中心です。入力は一見単純作業でもありますが、数量・納品先住所の間違い等、自分がミスをしてしまうことで、多大な迷惑を掛けてしまいます。ミスなく仕事を行っていくことで、他の人からの信頼も得られていくと思うので、ミスなく仕事をするを心掛けていきたいと思えます。



生産資材部 肥料資材課
千葉 健太さん



●「IBCまつり」で県産農畜産物をPR

令和元年9月14日(土)～15日(日)

IBCまつり2019出展「岩手県農協養豚経営者連絡協議会豚肉試食会」・「ミルクフェア2019いわて」

盛岡産業文化センターアピオで9月14日、15日の2日間にわたり開催された「IBCまつり2019」にて、JA全農いわて・岩手県農協養豚経営者連絡協議会(豚経連)は「いわて純情豚」の無料試食会を実施しました。その場で焼いた「いわて純情豚」を無料で配布することで、その魅力をIBCまつりの来場者に味わってもらおうというこの取り組みは、2015年から始められ今年で5回目。生産者自らがスタッフとして参加し、「いわて純情豚」のPRと、更なる消費拡大を消費者へ呼びかけました。

会場では、400名/日を対象に試食を実施。1日3回に分けて試食会が行われ、いずれも30分ほどで100名以上が試食に訪れました。試食会が始まるとブースには長蛇の列ができ、多くの来場者がいわて純情豚の美味しさに舌鼓を打ちました。

無料試食の間には、今年初の試みとして、「いわて純情豚」と岩手県オリジナル水稲品種「銀河のしずく」を使用した「いわて純情米の店 銀河食堂」のお弁当販売を実施しました。両日とも100食/日が2時間ほどで完売。たくさんの方の往来で会場は熱気に包まれました。

また同会場では、JA全農いわてが後援する「ミルクフェア2019いわて」も開催され、来場者に県産牛乳の魅力を実感しました。県内乳業メーカーの商品の試食・試飲・販売やアイスクリーム・バター作り体験、ミルククッキング教室、骨密度測定コーナーなど多岐にわたるイベントが催され、来場者に牛乳をより身近に感じてもらう絶好の機会となりました。



たくさんのご来場ありがとうございました!



お弁当購入者・アンケート回答者には豪華賞品がある抽選会も



「2019いわて純情むすめ」が県内乳業メーカー商品の試飲を呼びかけました

●酪農家の意欲向上へ

令和元年8月24日(土)

第48回 岩中酪ホルスタインショウ

岩手中央酪農業協同組合は八幡平市畜産共進会にて、「第48回 岩中酪ホルスタインショウ」を開催しました。ホルスタイン種43頭が出品され、月齢に応じた発育や体積、品位等の審査を実施。第1部～第4部の優等1、2席(計8頭)から名誉賞、準名誉賞が選ばれ、賞状と記念品が渡されました。また、第2部審査では観客の皆さんにも審査を予想していただく「ジャッジングコンテスト」を行い、審査眼を競いました。

岩中酪の工藤定幸代表理事組合長は、「出品者の皆様の研鑽の場となり、励み・意欲向上に繋げてほしい」と、酪農関係者への応援の言葉を送りました。

名誉賞、準名誉賞に選ばれたのは、次の通りです。

区分	出品番号	名号	出品者名
名誉賞	202	モリノウ ドリーム ラヴアー	盛岡農業高校
準名誉賞	213	モリノウ カラー オブ ライフ	盛岡農業高校



名誉賞・準名誉賞の審査の様子



名誉賞に選ばれた盛岡農業高校出品の「モリノウドリーム ラヴアー」



編集
後記

10月を迎え、今年の夏も終わりつつあります。個人的に暑い夏は苦手ですが、いざ終わってしまうといつも寂しく感じる事が不思議です。岩手県はこれから「実りの秋」。澄んだ空気の中でたくさん「実り」が収穫され、それを祝うように県内各地で多くのイベントが開催

される季節です。来月号は、そんな「秋らしさ」を感じられる内容にできたらと思っています。これから本格的な収穫が始まる「令和元年産米」の味も楽しみです。みなさんも秋の味覚を堪能しましょう!

(毛塚)

●「特A」連続取得に期待がこもる

令和元年9月18日(水)

令和元年産米「銀河のしずく」刈取式

9月18日(水)、花巻市湯口の圃場にて、「令和元年産米「銀河のしずく」刈取式」が開催されました。式には、生産者や市・花巻銀河のしずく栽培研究会・JAいわて花巻などの関係者らが出席し、無事に収穫期を迎えた岩手県オリジナル水稲品種「銀河のしずく」の収穫を祝いました。出席した「2019いわて純情むすめ」らがコンバインに乗り込み稲刈りを体験した他、新米を使用したおにぎりの試食が行われ、「実りの秋」の喜びを噛み締めました。

挨拶を行った花巻地域銀河のしずく栽培研究会の高橋春雄会長は、「今年は7月中旬頃に低温の時期があったが、生産者や関係者の皆さんの努力のおかげで順調にお米を生育することができた。収穫期を迎え、穂の色もよく、高品質なお米を収穫できることを期待している。県内外に自信を持って出荷していきたい。」と出荷への喜びを語りました。

式を行った花巻市湯口の圃場は5月13日に田植えが行われ、128日約4か月の生育を経て刈り取りが行われました。今年度の岩手県内の「銀河のしずく」の作付け面積は1480ha。そのうち花巻管内での作付けは144haとなりました。

令和元年産「銀河のしずく」は、10月3日から県内で販売される予定。みなさんも令和初の新米の味をぜひ確かめてみてください。



コンバインに乗り込み稲刈りを行う「2019いわて純情むすめ」



関係者らによる記念撮影

●岩手のお米で留学生を支援!

令和元年9月9日(月)

AFS留学生 表敬訪問

JA全農いわてでは、社会貢献活動の一環として公益財団法人AFS日本協会を通じて、留学生のホストファミリーに対して県産ひとめぼれを提供しています。今年度、新たに3名の留学生が来日したということで、9月9日(月)に留学生が来所してくださいました。

今回の留学生は2つの異なるプログラム(「AFS通常プログラム」、「アジア高校生架け橋プロジェクト」)から日本留学に参加しています。3人は寮やホストファミリーのもとで生活し、県内の高校に通学中です。モンゴルやベトナム、アメリカから来た彼女たちは、日本の食や伝統、文化に興味津々。留学した目的や日本の好きなどを語り、岩手での生活に期待を寄せました。

今後もJA全農いわてでは、留学生に支援米を提供し、日本での生活をサポートしてまいります。



3名の留学生との記念撮影

●秋の風物詩「農業まつり」

令和元年9月7日(土)

第12回 JA新しいわて奥中山農業まつり

9月7日(土)、JA新しいわて奥中山支所にて「第12回 JA新しいわて奥中山農業まつり」が開催されました。この時期、県内各地で開催される秋の風物詩「農業まつり」ですが、この日(9月7日)は気温が35度を超える猛暑日となりました。そんな中、暑さに負けず多くの方がご来場くださいました。

会場では、和牛共進会、いわて牛の無料試食、バターづくり体験、牛乳早飲み大会、魚つかみ取り大会、鉄神ガンライザーとの握手会などたくさんのイベントが催されました。

JA全農いわてからは、「2019いわて純情むすめ」が県産農畜産物のPRスタッフとして参加し、農業まつりを盛り上げました。



いわて牛の無料試食には行列ができました



まつりの最後は餅まき大会でフィナーレ!



JA全農いわて

自然と愛でできている。

いわて純情米

金色の風・銀河のしずく・ひとめぼれ
あきたこまち・どんぴしゃり・いわてっこ



私たち全農グループは、
**生産者と消費者を
安心で結ぶ懸け橋**
になります。

- 私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
 - 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
 - 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
JA 全農いわてホームページ

〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145
<http://www.junjo.jp>

